

基本構想策定の経緯

現在の岩見沢市立総合病院は、経年による施設設備の老朽化、汎用性の低さ、療養環境やサービス機能の低下など様々な課題を抱えており、南空知医療圏における地域センター病院として、高度化、多様化する医療ニーズや医療技術の進歩、安全管理や業務効率の向上などに対応するため、新病院の整備が必要となっています。

総合病院を取り巻く環境

医療政策の動向

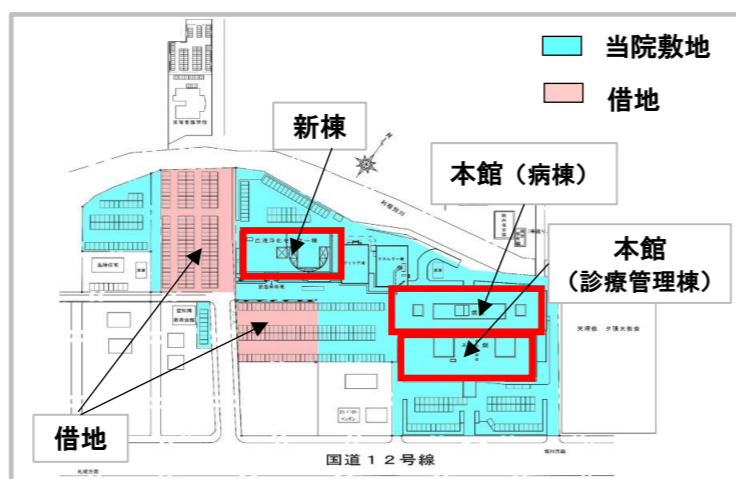
- 国では、団塊の世代が全て後期高齢者となる令和7（2025）年を控え、将来の社会構造の変化に対応するため、**地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化、地域連携**を推進することとしています。
- 北海道では、平成28年に**北海道地域医療構想**を策定し、道内21の二次医療圏ごとに令和7（2025）年における必要病床数を示すなど、医療連携体制の構築と円滑な推進を図ることとしています。
- 北海道全体では、令和7（2025）年の必要病床数は73,190床（対H28▲7,975床）と推計されるとともに、**全道的に回復期病床が不足**すると見込まれています。
- 南空知医療圏における令和7（2025）年の必要病床数は、1,925床（対H29▲413床）と推計されており、病床機能別では、**急性期・慢性期病床が余剰**となる一方で、**高度急性期病床や回復期病床が不足**の見込みとなっています。

将来の医療需要の変化

- 岩見沢市、南空知医療圏ともに将来にわたり、人口減少が予測されていますが、南空知医療圏に占める**岩見沢市の人口割合は上昇**していく見込みです。
- 南空知医療圏における患者数の将来予測は、**入院患者数、外来患者数ともに減少傾向**ですが、入院患者数は令和12年までは緩やかな減少傾向であると予測されています。

総合病院の現状

- 所在地 岩見沢市9条西7丁目2番地
- 病床数 484床（一般365床、感染4床、精神115床）
- 診療科 15科
- 開設年 昭和2（1927）年9月1日
- 施設の状況
 - ・敷地面積 19,304㎡（その他駐車場借地5,090㎡）
 - ・延床面積 30,931㎡
 - ・建築年 本館（病棟） 昭和59年3月
 - 本館（診療管理棟） 昭和60年3月
 - 新棟 平成17年11月



- ・総合病院の本館は建築から35年以上が経過しているため、施設や設備の老朽化・狭あい化や、患者満足度調査でも意見が多かった駐車スペースの不足など、**ハード面で多くの課題**を抱えています。
- ・医療提供体制については、5疾病5事業の観点から検証した結果、必要な診療体制の構築や設備の整備が図られており、**総合病院は南空知医療圏における中心的な役割を担っている**といえます。
- ・経営状況については、平成28年度以降は3年連続で赤字となっていますが、平成30年度からDPC対象病院となったことによる収益増やコスト削減により収支改善に向け取り組んでいます。

人口減少、超高齢社会に対応した医療需要の変化や総合病院の役割を踏まえつつ、施設の老朽化等の課題に対応し、引き続き南空知医療圏における地域センター病院として新病院を整備するための基本方針を定めました。

新病院整備の基本方針

新病院のコンセプト

『質の高い急性期医療の提供を維持・強化するとともに、南空知医療圏域住民の生活的価値（QOL）を実現する地域包括ケアの拠点ともなる病院』を目指します。

- 1 急性期医療・救急医療提供体制の充実**
 - ・急性期医療体制と救急医療体制を強化するとともに、三次救急の医療機関との連携を図ります。
- 2 地域医療連携と回復期機能の充実**
 - ・岩見沢市医師会や地域医療機関との連携強化を図り、地域医療の推進を図ります。
 - ・回復期リハビリテーション病床などの設置を検討します。
- 3 がん治療体制の提供**
 - ・最先端医療機能の整備や緩和ケア病床の設置を検討し、将来的にがん診療連携拠点病院の指定を目指します。
- 4 透析療法の提供**
 - ・引き続き透析患者に対応する体制を維持します。
- 5 精神医療の提供**
 - ・身体合併症を有する精神疾患患者を診療できる体制を維持します。
 - ・近隣の精神科医療機関や福祉施設等との連携を強化し、長期入院患者の地域移行や早期退院・社会復帰を促進します。
- 6 小児・周産期医療の提供**
 - ・妊娠・出産・子育ての医療分野における切れ目のない支援に向け、小児医療を推進するとともに、周産期医療体制の充実を図ります。
- 7 災害拠点病院の役割**
 - ・災害拠点病院として、災害医療体制の充実を図ります。
 - ・災害に強い病院設備を整備します。
- 8 研修環境の提供**
 - ・高度な専門性や地域医療を担う医師の育成に向け、基幹型臨床研修病院として、引き続き研修環境の充実に向けた設備や機能の整備を図ります。
- 9 チーム医療の推進**
 - ・医師、看護師、医療技術など多職種のスタッフが連携、協力する「チーム医療」の推進を図ります。
- 10 安全・安心で快適な療養環境等の整備**
 - ・安全・安心で利用しやすい施設・設備を整備するとともに、快適に療養できる環境の提供を目指します。
 - ・エネルギー消費量の収支ゼロを目指すZEBの検討など、地球環境と経済性の両面に配慮した施設を整備します。

新病院の
目指す
病院像

整備手法・スケジュール等

病床規模及び病床機能

新病院の病床数や病床機能（感染症病床含む）は、次の事項を踏まえ、基本計画の中で詳細に検討し決定します。

- ・南空知医療圏における受療動向、将来の人口推計、入院患者数の将来予測や平均在院日数などを考慮
- ・南空知医療圏における病院建替えや病床数の削減・機能転換・診療所への転換などの医療提供体制の変化を考慮
- ・市内医療機関等との連携を推進すべく、北海道中央労災病院や岩見沢市医師会など関係機関との協議・検討

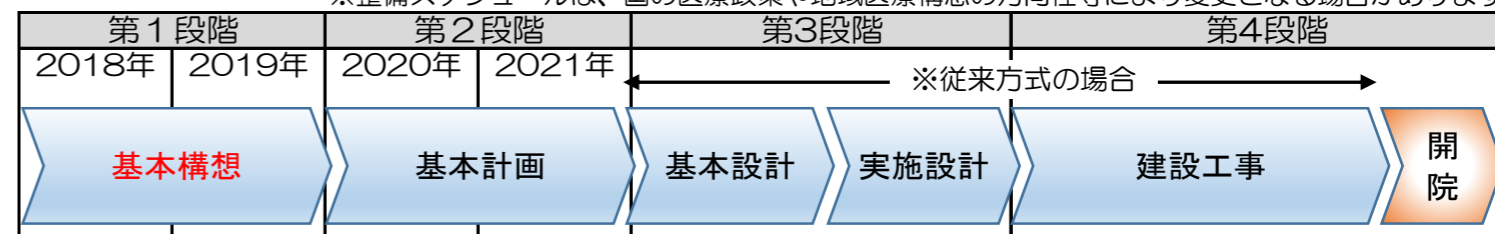
建設候補地の選定方針

建設候補地の選定については、必要面積、防災と安全性、早期性、経済性、利便性、周辺環境、法令適合性を評価項目として、複数の候補地を選定し、基本計画の中で検討・評価を行います。

整備手法・整備スケジュール

整備手法については、従来方式、DB方式、EPC方式などの様々な方式の特徴を総合的に勘案しながら、基本計画の中で検討します。また、整備スケジュールについては以下の流れで進めていきます。

※整備スケジュールは、国の医療政策や地域医療構想の方向性等により変更となる場合があります。



整備事業費と整備財源

整備事業費は、今後策定する基本計画・基本設計の各段階において、新病院に求められる役割や機能、必要な病床数などを考慮して具体的な整備内容を検討し、詳細な事業費を算出します。また、整備財源については、企業債のほか、活用できる国や北海道の補助金を調査して財源の確保に向けた検討を行い、病院事業における実質負担の抑制に努めます。

市立栗沢病院の方向性

総合病院との再編・ネットワーク化も視野に入れ、地域医療構想などを踏まえて、栗沢地域に必要とされる機能、適正な規模を有する医療施設を今後も維持するために、引き続き検討を進めます。